

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2791300078		
法人名	株式会社 ニチイ学館		
事業所名	ニチイケアセンター貝塚【一階 はなみずき】		
所在地	大阪府 貝塚市 加神1丁目10番3号		
自己評価作成日	令和3年1月25日	評価結果市町村受理日	令和3年4月8日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/27/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JiyosyoCd=2791300078-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般社団法人 市民生活総合サポートセンター		
所在地	〒530-0041 大阪府北区天神橋2丁目4番17号 千代田第1ビル		
訪問調査日	令和3年3月1日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「笑顔と思いやりを忘れずに、安心できるゆったりとした場所を目指します」のホーム理念に添えるように日々頑張っております。皆様が穏やかにまた、スタッフが働きやすい雰囲気の良い職場を目指しています。皆様のお誕生日会や四季折々の催し、毎日の共同作業(洗濯たたみ・食器拭き・モップかけ)を通して生活を意識付けております。特に家族様との関わりで、その方にとって一番居心地の良い場所は？状態は？と生活する中でアドバイスを提案したり、ご本人様にとっての安心を保てるようにしています

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当該ホームは利用者が安心できる場所作りや穏やかに笑顔で暮らせるよう毎月のフロアミーティングや毎の朝礼や夕礼で職員間で話合っています。日常生活では洗濯物を畳んでもらったり人通りが少ない周辺に散歩に出かける等活動的に過ごし、また行事では正月に鳥居や神社を作ったり4月には桜の造花等でフロアで花見を楽しめるように準備する等、利用者の笑顔に繋がるよう工夫し支援しています。身体拘束や接遇マナー等についての定期的な研修に加え、ミーティングで具体的な事例や不適切な対応について伝え、職員一人ひとりが利用者との関係性を大切にし穏やかに過ごせるよう個々に合わせた丁寧な対応に努めています。またコロナ禍において家族と直接面会できない中リモート面会に取り組みんだり手紙や電話での細やかな状況報告を行い家族との関係性も大切にしています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	朝礼・夕礼に毎月の目標を上げ皆で努力目標にして共有します	法人理念の基ホーム独自の理念を作成し、入職時説明の際に理念に込められている思いを説明し、玄関に毎月の目標と共に掲示しています。毎日朝礼や夕礼で唱和し意識して支援に当たり、ミーティングでも笑顔や思いやりのある対応や安心できる居場所作りができるよう話し合い理念の実践に繋げています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	毎日の散歩で言葉を交わしたり、秋の文化祭は加神町公民館に写真を出品しました	コロナ禍以前はだんじりやよさこい等の地域の祭りや公民館で行われる文化祭への出展や見学、傾聴ボランティアや高校生の福祉体験の来訪等、様々な地域交流を行っていました。現在は町会長や民生委員にホームの状況を伝える機会があり、感染症収束後に交流を再開していきたいと考えています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域への還元は難しいですが、今生活されている方がたがイキイキと過ごして頂く場面を貝塚高校の生徒さん達と関わることで認知症の理解を深めています		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	新型コロナウイルスの影響にて会議が開催しておらず、二ヶ月間の情報を書類にし個別に意見を聞き、サービス向上に活かしている	会議は家族や町会長、民生委員、市職員等の参加を得て2カ月に1回開催し、利用者や職員の状況、事故やヒヤリハット事例、行事頭の報告を行い、意見交換をしています。コロナ禍には法人や行政と相談し、ホームの状況を書面にし町会長や民生委員、市職員に手渡しで届け意見を聞いています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営会議・グループホーム会議の担当の職員さん・相談事を解決に導く担当者と共に情報交換をしています、また事故報告など適切に報告し大事に至らないようにしています	運営推進会議の議事録の提出や手続き、相談事があれば市の窓口に出向くようにしており、管理者交代後にも市職員とも馴染みの人関係を築くよう努めています。コロナ禍でグループホーム会議は中止になっていますが、メールでの注意喚起があれば職員に周知しマスクや手袋の配布を受けています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束・高齢者虐待の研修を通してスタッフが自覚・納得しケアが出来るようにしています。介護経験が浅いスタッフが多く身体拘束と知らないで行うサービスが無いように気をつけています。正面玄関は夜間のみ施錠しています	年に一度は身体拘束についての研修を行い毎月のミーティングの中で具体的な身体拘束に繋がるような事例を職員に伝えていきます。行動を止めてしまうような言葉掛けは職員間で注意し合える関係が築かれ、ミーティングでも注意することもあります。日中は玄関等の鍵がせず、外に行きたい利用者には寄り添い傾聴したり外に一緒に出ることもあり拘束感のないよう支援しています。	

ニチイケアセンター貝塚【1階はなみずき】

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的な研修で今年度は上期・下期で高齢虐待の研修が出来ました		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	会社の研修で管理者が「権利擁護」、成年後見人制度の研修を受けました。ホームでも研修も持ちたいです		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居にあたり不安の無いように説明し疑問点があれば丁寧に理解して頂ける様になっています		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	随時いろいろな声を聞けるように管理者だけでなくスタッフにも声を掛けて頂いてます、苦情・要望は直ぐにカンファレンスを開き皆に週知しています	利用者の意見は日々の関わりの中で聞き個々の思いに応えるように努めています。家族には写真の載せた手紙を送ったり少しの変化も電話調査をかけて日々の様子を伝え、面会時や年に一度の満足度アンケート等で家族から意見や要望を聞いています。コロナ禍では直接の面会が難しい中リモート面会を行ったり玄関で距離をとり電話で会話をするなど工夫しながら会ってもらっています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	スタッフの面接を上期・下期の2回全員行いました。また体調により勤務時間の調整や工夫を行い退職者が出ないように気配りをしています	職員の意見や提案は毎月行うフロア毎のミーティングや朝礼・夕礼等で意見や提案を出し合っています。ミーティング前には非常勤職員の意見を常勤職員が聞き管理者に伝え議題にあげ、出席できない職員の意見も個別に聞いています。行事ごとに担当職員を決めて職員が主体的に行い、年に2回は個別面談を行い、また日々の中でも様子を見て面談を行い意見や思いを聞いています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	認知症介護を研修にて理解し現場に反映出来るように促し、個々に遣り甲斐を見出せるように努めています。今のスタッフは3年後の介護福祉士は受験したいと希望する者が半数います		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	会社の研修制度を利用したり、各自スキルUPの研修は奨励しています、シフト以外に研修日の設定をしたり、学びやすい環境にしています		

ニチイケアセンター貝塚【1階はなみずき】

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	貝塚市のグループホーム会議などに参加したの施設の情報や工夫を取り入れるようにしています		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の情報や面接の時に話し合いで把握に努め、穏やかに落ち着いて生活出来るような声かけを心掛けています		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族様のご本人様との関わり方はそれぞれですが家族を思う気持は同じです。何を希望されているのかを聞き取っております		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	今、何が優先するのか、ご本人様・家族様と一緒に考え提案しています。傾聴ボランティアさんの導入もしています		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	この場が皆様の「家」でありスタッフは家族です、もし自分の母なら・おばあさんならとの考えでケア出来るようにしています。また軽作業を通して笑顔が増えたり発語があるとスタッフも癒されています		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人様、家族様にとって何が一番かを考え本人様のケアに繋げていきます。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居されても近所のお友達や親戚の方などいつ訪問されても対応できるように配慮しています	コロナ禍以前は友人や知人、親戚等の来訪があったり、家族と自宅や墓参りに行く方もおり馴染みの関係を継続できるよう支援していました。現在はかかってきた電話の取り次ぎや希望にそってかけたり、また年賀状を書く方には投函をする等、できることの支援をしています。	

ニチイケアセンター貝塚【1階はなみずき】

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	それぞれの方の個性を把握しお互いの出来ないところは補い、出来るところは協力して生活できるように支援しています		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院や退去でサービスが終了された方で、「今、母はこんな状態です」と報告して下さったり特養に移られた家族様へ「また、解らない事があれば・・・」と伝えると「はい、また来ます」と喜んで下さいます		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	介護の業務は「人」が優先します、業務に人を合わせるのではなく、その方に合わせた業務でなくてはならないと日頃から指導しています	入居前に自宅や施設、病院等利用者が暮している場所で面談したり、施設の職員や以前の担当ケアマネジャーから情報を得て思いや意向、生活歴や趣味嗜好等を把握しています。入居後の日々の関わりで個々の利用者のその時の出来事や感情等を細かく記録に残し情報を共有し、ミーティング等で思いを汲み取れるよう話し合っています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	地域での生活状態、その方を理解することから始まり、関わることでいろいろな発見があります、スタッフが会話や活動の中から聞き取りそれを共有出来るように努めています		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	業務の一連の流れに合わせるのではなく、その日の様子や感情を大切にし生活リハビリや活動が出来るようにしています		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当者会議を開き、またそれぞれの気づきを集めより具体的な計画で支援していきま	本人や家族の思い、アセスメントの基、サービス担当者会議を開き介護計画を作成しています。毎月のミーティングで個々の利用者の状況について話し合う中で必要時にはモニタリングを行い、変化のない場合は6か月毎に見直しています。見直しに当たっては再アセスメントを行い家族の意向を確認し、医師や訪問看護師の訪問時に必要な情報を計画に反映しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	関わった事での変化や行動が記録に残るようにし、それをスタッフが共有出来るような介護記録を残しています		

ニチイケアセンター貝塚【1階はなみずき】

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その方の望んでおられる希望に少しでも近づけるような関わりや支援が出来るように、既製概念に囚われず自由な発想で視野を広げて考えるようにと指導しています		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ホームの周りの環境・散歩コース・桜の季節の花見・コンビニへの買い物・役所への訪問と様々な資源を出来る限り活用しています		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ホームでの健康管理は必須です。定期的な往診・体調不良時の指示やレントゲンなどタイムリーな情報を伝える事で適切な治療がなされています	入居時に今までのかかりつけ医を継続できることを説明し、協力医は2週間に1度の往診があり、同じクリニックの訪問看護を週に1度受け、24時間連携体制を整えています。継続している主治医や眼科等の専門医へは家族の対応を基本とし、急な時等家族が行けない時に職員が対応しています。希望や必要に応じて訪問歯科や訪問マッサージを受ける方もいます。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	少し不安な部分の心配事や確認は訪問看護師さんが訪問してくれることで安心です、何でも相談できる関係を築いています		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	河崎病院・葛城病院・貝塚市民病院・近隣の青山病院など常に連携が取れるように地域医療連携室と情報交換しています		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	体調の変化から今の生活が維持できなくなるようであれば、毎月のお手紙や訪問時に時間を取りお話をしています、この事は日々のケアに関わることなのでスタッフにも週知しています	入居時に重度化や看取りの対応指針にそってホームで支援できることを説明しています。実際に重度化してきた際には管理者が医師から聞いた利用者の状況を家族に伝え思いを聞きながら方針を決めて支援しています。以前には看取り支援の経験はありますが、利用者にとって最良の方針を話し合い入院する方もいます。できる限りホームで長く過ごせるよう職員は医療とも連携を図りながら支援しています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	経験の少ないスタッフが多く、中々マニュアル通りには出来ないようです。救急搬送も体験し、このような場合は皆が対応できるようにと説明していますが、まだまだ至りません		

ニチイケアセンター貝塚【1階はなみずき】

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回の消防訓練はしていますが、地震の訓練は出来ていません、車椅子の多いホームなので2階の高いところに避難するようには聞いています(津波の予防です)	年に2回行う消防訓練は以前は1度は消防署の立ち会いの下行っていましたが、コロナ禍になり今年度は2回とも自主訓練として通報や初期消火、非常口までの避難誘導の訓練を行っています。また1週間分以上の食糧と水、懐中電灯やラタン等の備蓄をしています。	感染症収束後に消防署の立ち会いを受けた際には課題とされている地震対策について聞いたり、地域との協力体制について話し合われることを期待します。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	家族である皆様を大切に思う気持はスタッフも同じですが、言葉かけの気遣いが足りないスタッフもおります、個別に対応し指導しています	接遇マナーやプライバシー、認知症ケア等の研修やミーティングの際にも利用者を尊重し対応について職員に伝えています。信頼関係を築くことを基本とし、利用者に合わせて敬語や親しみを込めた言葉遣い等を選び利用者が落ち着いて過ごせるよう対応をしています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	もう少し、ゆっくり落ち着いてお話を聞く事に皆に指導し、こちらが決めた事を促すのでは無くいくつかの選択肢を上げ選んで頂くように心がけています		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ある程度のタイムスケジュールはありますが、その日の体調や希望に添える様に、業務が主では無くご本人様を主と考えて生活出来るような業務を行うように指導しています。毎日入浴希望の方へも対応できています		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎日の散歩前の身だしなみや服装・お花見の外出時の薄化粧・花火の日の浴衣と薄化粧・敬老の日の催し時の正装などメリハリのある工夫をしています		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節感があり、会話の中から「こんな食べ物いいな」「皆様の大好きな鮎にしましょうか？」など提案し、準備・お盆拭き・等して頂いています	献立は1週間分ずつ旬の物や行事食、栄養バランスを考え、前日に食事を発注しホームで食事作りをしています。食事作りに携われる方が少なく、行事食の時にのり巻きを巻いてもらう等のできることをしてもらい、また寿司のテイクアウトする等食事を楽しんでもらったり、ケーキ等のおやつの手作りし喜んでもらえるよう支援しています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	普段家庭で食べているメニューをミキサー食・柔らか食・そして色合い・量など気を配り、水分量も個々の摂取量に足りない時はスタッフに申し送りして好きな飲み物を提供しています		

ニチケアセンター貝塚【1階はなみずき】

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後に歯磨きの出来る方は洗面台で、介助の必要な方はブラッシング・スポンジ・口腔ウエットなどに対応しています。訪問歯科も月に2回来て頂き利用されている方もあります		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	基本トイレ誘導ですが、その方の排泄に合った方法を行っています(定期的なおむつ交換・その時々トイレへの声かけなど)	個人記録や排泄チェック表にて排泄パターンを把握し、言動も観ながら個々の利用者のタイミングでトイレに行けるように支援しています。以前に業者による排泄用品の研修を受けたこともあり、日々の状況から申し送りやミーティングで話し合いその方に合った支援となるよう取り組んでいます。重度の方も日中は座位保持ができれば二人介助で支援することがあったり、夜間ポータブルトイレの利用、布の下着で生活している方は現状維持できるように支援しています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	高齢者の方の便秘は体調に大きな影響を及ぼすことを理解し、食事の工夫や軽運動・Drと相談し適切な排便コントロールを行っています		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	皆様に入浴を楽しんで頂ける様に適切な促しで強要しない、また時間帯も朝・夕でも希望があれば対応します、便汚染があった場合でも臨機応変に対応し、気持ちよく過ごして頂ける様にしています入浴剤の色々そろえています	入浴は3日に1回午前中を基本とし、一人ずつ湯を入れ替えゆっくり会話をしながら入ってもらっています。脱衣室の室温に配慮し、希望にそって午後の入浴や回数を増やすことも可能で、ゆず湯をしたり入浴剤を使用することもあり入浴を楽しめるよう支援しています。基本的に同性介助で行い羞恥心等にも配慮し、拒否する方には時間や声の掛け方等を工夫して無理なく入浴してもらっています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その方の状態に合わせて自由に過ごして頂いています、布団干し・環境整備も常にしています		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	毎食後の服薬・入浴後の塗り薬・排便コントロールの便秘薬など適宜対応しています。また皮膚の観察で潤う不足であればローション・軟膏など場面に合わせ対応しています		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	その方の趣味・好きなことなどを・・・と常に試行錯誤していますが、張り合えず催し物は皆様と計画・準備してその日を楽しんで頂ける様にし笑顔が見れるようにしています		

ニチイケアセンター貝塚【1階はなみずき】

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	新型コロナウイルスの為外出が出来ない状況ですが人の少ない時間をはかり散歩に行くようにしています。	ホーム周囲の環境が通行する人も少なく、毎日全員の方に散歩の希望を聞き拒否される方以外はホーム周辺の散歩に出かけています。コロナ禍以前には地域の祭りや文化祭等に出かけていたが現在は外出できず、人工芝を敷き広い庭で過ごしてもらえるよう改修中です。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	コンビニでの買い物はご自分で欲しい物を選んだり支払いされます。和菓子屋・ケーキ屋さんなどもおやつを買いに行く事もあり支払い時はご自分で見ておつりなど頂いてます		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	必要に応じてやっていきたいと思っています。今回は出来ませんでした。年賀状の作成をします		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	どの場面でも過ごしやすい環境を意識して安定した生活が出来るようにしています。ホールのBGMや季節の花・室内の温度・採光など	共有空間はクリスマスや雛飾り等の季節の飾りつけの他、手作りの鳥居や神社を作ったり、4月には桜の造花等でフロアで花見を楽しめるように準備しています。座席は利用者同士の関係性に配慮し変更したり、ソファを置き過ごす場所も選ぶことができるよう配慮しています。換気を行うことの大切さを職員に伝え、毎日掃除を行い清潔を保ち、利用者の体感にも合わせて室温管理や衣類の調節に努めています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居室でお友達とお話をされたり、テーブルを囲んで日々の生活の話し・近所や家族様が暮らす場所の話がされています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ベッドの位置は入居時に家族様と相談して決めていますが、その後生活する中で不便であったり、使い勝手が悪い時は模様替えの工夫もしています。服や下着なども体調に合わせて心地よい物をアドバイスしています	入居時に使い慣れたものを持ってきてもらうように説明し、タンスや机、ベッド、テレビ、大切にしていた仏壇等を持参し家族と相談し配置し、安全に配慮し変更することもあります。家族の写真を飾ったり、家族が持ってきた本と一緒に見る等、思い思いに過ごしてもらっており、生活習慣等に合わせベッドではなく布団で休むことも可能です。毎日の換気や掃除で清潔保持にも配慮しています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全におトイレに行けるように場所がはっきり分かるようにして、自由に過ごして頂いています		